回覧

平成灯台守

2023. 8 月号

発行/御前埼灯台を守る会

中高生令和の灯台守体験

御前崎市主催の「中高生 NPO 体験プロジェクト」が 7 月 23 日灯台資料館で行われ、中高生 3 人が灯台を守る会の活動を体験しました。参加者は、構内の草取りをした後、資料館当番から御前埼灯台の歴史や元船乗りから灯台の役目等の話を聞きました。

資料館開館状況（四半期）

4 月から 7 月までの灯台資料館は開設 18 日、入館者数 3,356 人（灯台まつり 1,131 人含む）でした。連休後に新型コロナ感染症が 5 類に移行されたことから人出を期待しましたが、長い梅雨と猛暑のため振るいませんでした。また、4 日間は雨天、強風のため開設できませんでした。

入館者、当番の感想です。

・磐田市に住む外国人の女性 4 人連れは、御前岩灯台をヨットだと思っていたようだが、館内で灯台だと知り、玄関から実物を見て「ワオー！」と歓声を発していた。

・資料館からの景色が良いと感動する人が多かった。御前崎人の「当たり前」が、他所の人の「魅力」ということか？

・熊本からの知人に色々と説明する地元の人があった。わがまちの自慢を伝えてくれ

てうれしいですね。

・台風一過の良い天気となり、歩け歩け運動で大勢の人が来た。地元の人でも、初めてという人が多く、見てもらえて良かった。

・登れる灯台 7 か所を巡ったという茨城の家族、時間がかかっても全部回りたいと。

また、資料を見て灯台巡りをしようと決めたカップルもいた。

・富士山に来たので御前崎に寄ったという姫路市の若者 2 人、風が気持ちいいと言っていた。このような人が意外と多い。

調査記録　角島（つのしま）灯台

山口県の西端、2000 年に開通したコバルトブルーの海に架けられた角島大橋（1780 m）を渡ると島の先端に明治 9 年に作られた角島灯台があります。

築造者は御前埼灯台と同じＲ・Ｈ・ブラントン、彼が手掛けた日本最後のもので、花崗岩で作られた無塗装の灯台です。

塔の高さ 30m、階段は御前崎とは逆の左回り 105 段。レンズは建設当初の第一等回転式 8 面レンズを搭載し、今なお現役です。

踊り場（展望デッキ）の括れた部分は西洋の城を思わせる美しい装飾が施されています。

旧官舎はレンガ造りで下関市が灯台記念館として使用しています。

御前埼灯台できて 150 年

150 年前の今頃、岬の先端では灯台建設まっただ中で、ちょうど写真のような姿になっていたのではないでしょうか。

来年の 5 月 1 日に 150 歳の誕生日を迎え、今も現役で活躍している御前埼灯台の歴史を紹介します。

明治 5 年(1872)5 月 26 日着工
ひなびた漁村に西洋文明舞い込む

御前崎村下村徳一氏は古老から聞いた話として次のように記録しています。

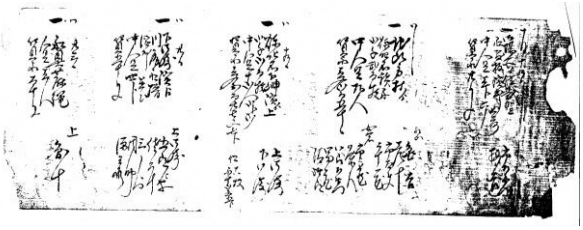
「明治 5 年 5 月、日本政府が招聘したイギリス人技師、リチャード・ヘンリー・ブラントンが九州の佐多岬や伊王島等の建設を終え、御前埼灯台の設計書を持ってさっそうとやって来た。

西洋式の堅牢高大な灯台が出来るとなると土地の騒ぎは大変なものだった。何しろ猫の額大の一漁村に最新の西洋文化が躍り込むわけなので無理もなく、「灯台の光りを恐れて魚が寄りつかなくなる」と工事に猛烈に反対した漁師もいたのである。

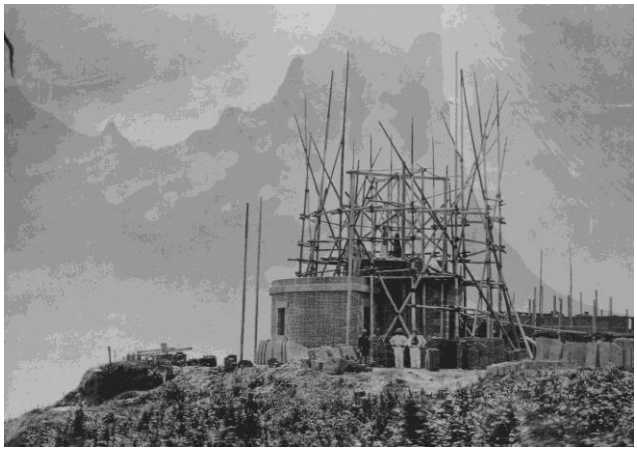
灯台の建設工事は全てブラントンの命令で進められたが、政府は監督、人事、会計などの普請奉行的な役目を担う今武高光、現場監督を担う技手一等見習の村山清弘を出張させた。

近郷近在から石屋、大工、左官等が駆り集められ、岬には飯場や宿舎が建ち並び、居酒屋まで出来るという始末だった。

灯台に使用する石は対岸の伊豆から数十



【村人がレンガや伊豆石等の資材を運搬した帳簿】



隻の船で運んで来た。

大きな石を海岸から高台に引き揚げるのはすこぶる難作業だった。ロクロを使用し巻き上げたが、一つの石に百人もの人足が掛かった。

外壁に用いるレンガは 8 ㎞ほど離れた地頭方村（現牧之原市）で焼き、村人が担いで運搬した。

5 月 26 日工事が始まった。基礎工事は、高台の突端に位置を定めると、6m程深く地下を掘り、岩盤に達すると砂利や石片を投げ入れてセメントで固めた。

灯塔の周囲築造壁は伊豆石やレンガを適宜組み合わせながら積み上げられ、まるで生き物のように空高く伸びていった。

明治 7 年(1874)4 月 30 日竣工
もち投げをして完成を祝う

こうして灯台は、丸 2 年の歳月を費やし、明治 7 年 4 月 30 日竣工した。

盛大な上棟式が終了すると、ブラントン、マクリッチの両技師、今武高光、村山技手等工事関係者が、祭壇に設けられた灯台の外郭へ登った。五色の弊が強い潮風に翻っている。

ここで撒餅、撒饌の儀が行われるのである。やがて近隣からワイワイ集まって来た数千の群衆の頭上に円形の白餅がパラパラと投げられた。餅の裏面には紅で「燈明堂」の文字が書かれ、銭は天保銭や文久銭を振り撒いた。拾う最中銭が眉間に当り血を滲ませた者も数名あったほどだった。」

次号につづく。　　by masatoshi